

テーマ:「地域の宝 宝当の島づくり」

講演者 野崎隆文(のざき たかふみ)

(有)「寶當」代表取締役 社長 (唐津市高島区長)



高島には、昔から宝当神社という小さい神社がありましたが、15年ほど前には人も行くような場所ではありませんでした。水産業中心でやってまいりました島の中で、社会の歯車が完全に水産業だけではやっていられない状態となってきたため、何とか交流人口を増やすために、「宝が当たる神社」と書く神社があるので、お参りしたら宝くじが当たるかなあという発想で、宝くじを入れる袋を考案しました。

平成4年に袋を考えて、平成5年に島おこしグループとして、実際に神社さんのほうでやりました。最初は、年間100人、200人くらいの観光客でしたけれども、皆さんやっぱり「いずれは少なからう」という感じでいらっしやいましたけれども、粘り強く過去10年ほどやっていました。

そうすると、マスコミが時期になると高島に取材きてもらえるようになりました。実際にお参りに来られて、宝くじ1億、2億当たった方の情報、宝くじを買いに来た人が言った情報等から、常に新しい商品と一緒に発表してきました。

当たる、当たらないはどうでもいい。とにかく当たった人の話題を高島のほうで盛り上げていこうと。そして、お客さんが唐津の町のあちこちで、「食堂でこの料理を食べて当たりましたよ」とか、「この宿に泊まりました」というようなスペシャルシート、スペースをつくって行って、話題にしていけば、新しい観光唐津のキーワードになっていくかなという構想でございます。今では、年間約15万～20万ほど参拝客が訪れて、水産業プラス観光産業が新たに作られてきております。

日々、皆さんと一緒に、これは水産業、観光ばかりじゃなくて農業も一緒です。いかに唐津の町で宝当というブランド、また他のいろんなブランドと一緒に楽しくやっていければと思います。本当にわずかな時間しかございませんでしたので、取り付く島もないぐらいに内容はなりましたけれども、日々、皆さんと一緒に楽しく町づくりがやっていければと思っておりますので、どうぞありがとうございました。